第15回八王子市まちづくり審議会

－会議録要旨－

平成27年1月26日
クリエイトホール第7学習室

八王子市まちづくり審議会事務局

第15回八王子市まちづくり審議会会議録要旨

公開・非公開の別	公開
傍聴人	なし
配付資料	〔配付資料〕 次第 資料1 地区まちづくり助成金の活用状況について 資料2 まちづくりアドバイザーの登録状況等について 資料3 中町地区まちづくり協議会の活動状況について 参考資料 中町地区まちづくり協議会の主な取り組み 意見シート

[午後7時 開会]

会) : 会長発言

委) : 委員発言

事) : 事務局発言

- (1) 地区まちづくり助成金の活用状況について (報告)
- (2) まちづくりアドバイザーの活用状況について (報告)
- (3) 中町地区まちづくり協議会の活動状況について (報告)

事) 本年度は、中町地区まちづくり協議会から助成金の申請をいただいている。会場の借り上げ費用、会議の資料作成費、アドバイザーへの謝礼、まちづくり通信の作成、まちづくりに関するプロジェクトの費用として活用している。助成期間は原則3カ年度目だが、本年度分については例外的に1年延長している。

アドバイザーの登録状況は、1名を追加登録して22名になった。アドバイザーのあっ旋実績は、現在のところはない。地区まちづくり相談への同行実績数は、延べ人数は19人だが、基本的に中町地区まちづくり協議会に同行していただいている。その他、昨年11月に、裏高尾町と小津町の地区でワークショップを行い、そこにも同行していただいた。

年度末に開催している地区まちづくりフォーラムにも御協力いただく予定になっている。

本年度の中町地区まちづくり協議会の活動状況について説明をさせていただく。

地区まちづくり計画の協議会案をつくられて、一昨年11月頃に地区内へ配付をしたところ、思わぬ反発があったので、ご意見を受けて計画案の修正を図り、その後の取り組みを進めている。また、4月には協議会案の説明会を行った。そのほか、毎月第3火曜日の定例会を継続しており、活動のお知らせとして、まちづくり通信の発行をしている。

協議会でつくられた計画案について、地区の方々から理解が得られなかったため、説明会等でお話をしていただいた結果、協議会が中心となり、協議会案の実践活動を行うことで地域の方々の理解を得ていこうと活動方針を修正した。そこで、今年度は3つの取り組みとして、協議会案に関する合意形成に関する取り組み、イベントや情報発信に関する取り組み、まちの維持管理の取り組みを行い地域の理解を得ていこうと進めている。

その中の1つとして、絵葉書をつくって活動の周知を図りつつ、活動資金の捻出にもつなげていこうとプロジェクトを進めている。さらに、まちの維持管理等を積極的にやっけていこうと柳の木の剪定や黒塚の維持補修にも取り組んでいる。また、地域の清掃活動にあわせて、協議会が中心になって石畳の清掃活動をしている。

9月のおわらの風の舞にあわせて引き続き灯りによるまちづくりプロジェクトを行い、竹灯籠でまち並みの演出を図ることで中町の魅力を発信している。

中町の魅力を発信し、まちづくりの状況も確認できるということで、工学院大学の学生さんの協力を得ながらまち歩きマップの作成に取り組んでおり、いずれは絵葉書と同じように活動資金の捻出に繋がるものとしていこうと検討をしている。

さらに、土地所有者の理解を得ながら、ごみが置かれたり、草が伸び放題になっている空き地の一角を中町の魅力を発信できるスポットとして活用していこうと新たなプロジェクトをスタートした。

本年度は協議会案の実践をテーマに、活動の周知を図りながら地域の理解を得ていこうと取り組みを継続しており、中町まちづくり通信についても、地域の方へアピールすることを意識して作成している。

この後、中町の協議会の方々と、アドバイザーから補足説明をしていただいて、中町地区のこれまでの取り組みを踏まえながら今後の支援のあり方等についても意見交換ができればと思っている。また、委員の皆様からもいろいろと意見やアドバイスをいただきたい。

中町地区まちづくり協議会） 一昨年11月に計画書案を配ったときの地区内の反応があまりよくなかったため、4月に説明会を行った。そのときに、建物の高さ制限など財産権を制限するようなことはないのかという意見をいただいた。しかし、協議会ではそうした制限は盛り込まないと合意していたので、修正した計画書案には制限をしないとの文言を入れることで確認させていただいた。また、中町に住んでいる方の中には、例えば、花柳界という言葉に昔の悪いイメージがあって、そうした言葉の使い方についても指摘を受けた。

さらに、実際に地区内に住んでいる方は少なく、店舗、ワンルームマンションに住んでいる方が多いので、まちづくりに対して関心が少ない。そのため、定例会やまちづくり通信を配付するだけでは理解が得られにくいので、黒塀や灯りに関するプロジェクトなどを通して理解を深めた方がいいのではないかと取り組みを進めている。

こうした新しいプロジェクトには学生が協力してくれていて、まちの中に住んでいる者とは違った観点で意見を出してくれている。また、会議のメモをとったり、まちづくり通信のレイアウトをしていただいたり、事務的な処理をかなり助けていただいている。

さらに、住民から防犯のことも考えて欲しいという声があった。猫の糞害、いたずら書き、植木の盗難や毀損などの問題があるので、何か提案していければと相談している。

合意形成については、最初は二、三年でできると思ったが、なかなか意思疎通が難しいので、プロジェクトを通して理解していただこうと進めている。住民からは急がないで欲しいという意見があるので、少し時間をかけてやっっていこうと思うが、今年度で助成金が切れるので、これからの活動資金をどうするのかが来年度の一つのテーマとなっている。

最初は会議の進め方も分からなかったため、市の職員やアドバイザーの話を聞きながら進めていたが、最後は自分たちが主体でやらなければいけないことだ。ただ、アドバイザーや市の職員がいるだけで、いつでも相談できるという安心感があるので、常時協議会にいて欲しいと

は思っている。特に、合意形成で行き詰ったときにアドバイザーが必要だった。

まち歩きに使用できるマップを年度内に仕上げ、来年度には配布していきたい。また、合意形成に向けては、新しいプロジェクトを立ち上げて頑張っていきたい。

これからの活動資金については、協議会メンバーから会費を徴収することが難しいので、規約を改正して賛助会員を募って賛助金をいただいたらどうかということと、まちづくりが進んで中町地区がよくなれば商店もよくなっていくので、商店会に協力していただき支援していただけないかと考えている。さらに、民間機関の支援制度も勉強して、活用も考えていこうと思っている。もう一つは、絵葉書等のグッズを販売して活動資金になればと考えている。

まちづくりアドバイザー） 毎月の定例会に出させていただいて今年で5年目になるが、その場で課題をお聞きし、それを解決していくためのアドバイスを続けてきた。一筋縄ではいかないなと思ったのが、まちづくり計画書の合意形成について。計画案が私有財産を制限する内容ではなく、非常にソフトな例示集のレベルにとどめたつもりだったが、まちづくり協議会への不信感からか、裏に何かあるのではないかという思いを持たれている方が少数でも結構いることが説明会をして初めてわかった。そのことに関して、もう少し専門家として注意深く対応できなかったのかなという思いがある。

中町地区まちづくり協議会が発足する前に、結構強引に、声の大きい人が一生懸命まちづくりに取り組んだ過去があったようだ。これは、決して悪いことではないのだが、合意形成をせずに物事を進められた過去が根深くトラウマのように残っていて、精神的に嫌な思いをした地権者がいたようだ。だから、計画案の内容以前のところでつまづいてしまったことが、合意形成がうまくいかなくなっている原因ではないかと感じている。

そのため、そうした方々の誤解も含めて不信感を取り除く丁寧な対応がこれから必要なので、少しずつ克服していくために、一緒に力を合わせていってもらえるような状況づくりが計画書づくりでの課題ではないか。

そこにアドバイザーという立場で、なかなか地元には張りついて直接地権者の方とお話する機会がないので、その辺は協議会の方々の背中を少し押しながら進めていくことになるだろう。

まちづくり活動には人的な対価や、物にお金がかかるが、それを助成金に頼っていたら長続きしないと以前からアドバイスをしてきた。しかし、協議会メンバーが、日常的に商店会長や町会長であったりしたため、既存の活動団体とまちづくり協議会との明確な住み分けができていなかったようだ。そこはもう少し早めに、例えば、商店会活動のこの部分はまちづくり協議会で担うので、商店会からその分の費用を捻出してもらえないかとか、協議会、商店会、町会の役割分担を整理しておく必要があったのではないかと感じている。さらには、協議会の存続のためにはやはり会員で必要な費用を負担する必要がある。そこで、正員や賛助会員などを獲得し、活動の輪を広げて安定的収入を得ていく必要があるのではないかというアドバイスをしている。

その中で、専門家として、毎月の定例会に出ているその場に応じてアドバイスはしているが、それが果たして即効薬になっているのかという気がしている。そこは、成果に対して成功報酬を得るような、関わり方に対する厳しさが必要なのかもしれないと最近感じている。

中町地区まちづくり協議会） 中町町会としての取り組みは、芸者さんや、花街を多くの方に知ってもらうために、芸者さんによる初春の舞や宵宮の舞、八王子まつりでのわか山車、また、風の舞の際に本場の踊り手と一緒に芸者さんに踊ってもらうなどの大きなプロジェクトに取り組み、その結果、かなり知名度は上がってきて観客が随分増えてきた。

中町地区まちづくり協議会では、住民との合意形成という地道な作業に取り組んでいる。ここで一番強く感じたことは、花街ということで最近までいろいろと嫌な思いをされてきた方がいて、花街と言う言葉自体に抵抗感を持っている方がいるということ。そのことには全く気が付かなかった。そのため、昔の花街を復活するのではなくて、和の雰囲気を持った、昔の伝統的なよさを引き継いだ新しい花街をつくろうと協議をしている。

そのためには、柳の剪定、石畳の清掃、まちづくり通信などで、我々は昔の花街を復活するのではなく、明るい和のあるまちづくりをしていると訴えていく必要があると感じた。

今後もそうした地道な作業をしていかななくてはならないが、やはり費用がかかるので、どのようにその費用を賄えたらいいかアドバイスをいただきたい。

委） 今年度で助成が終了するが、その後について市では何か考えているのか。

事） 職員の人的な支援は今後も継続していけるが、助成金は期限が来たら切らざるを得ない。他の助成制度を御紹介していこうと考えている。

会費の負担について補足すると、町会や商店会の他にさらに協議会の会費では負担が大きいので、活動費の足しになればと絵葉書プロジェクトやまち歩きマップについて検討している。

委） 資金の確保は難しいと思うが、賛助会員等も含めて地道に理解を得ていくしかないだろう。

個人に賛助会費を負担してくれというのはなかなか難しいので、例えば、商店に賛助会員になっていただいて、協力願えないかということを切り口に少しずつ集めていく以外にないだろう。

会） アドバイザーの同行は続けられるのか。また、アドバイザーのあつ旋もできるのか。

事） 資金に関してであれば、同行については市から謝礼金を支払うので可能であるが、あつ旋については、謝礼金は協議会から支払うことになる。

委） このまちづくりの活動を市民活動と捉えてよいのであれば、サポートする助成金は多く、例えば、市民活動支援センターにはそうしたノウハウがある。

委） まちづくりというテーマの助成金があり、支援センターでは積極的に活用してもらおうと案内しているし、アドバイスもしてくれる。

委） こういう活動について、住民や会員のメリットはどのように捉えたらいいのか。

中町地区まちづくり協議会） 町会では、花街をまちづくりの拠点として考えており、花街に人が多く集まれば、商売も繁盛する。また、まちが整備されてまち並みがきれいになれば、昔の

和の情緒を保てる。その辺がメリットではないか。

委) 個人のメリットではないということか。

中町地区まちづくり協議会) 個人としては、人が多く集まるので商売をしている人にとっては繁盛すること。

中町地区まちづくり協議会) そんなに人は来て欲しくないという人もいるので、バランスが難しいが、中町が注目されていてブランド価値があるのではないかと聞くので、企業との協賛を考えたかどうかという話もあった。

委) 個人のメリットを言い出したら合意形成は絶対できない。やはり地域としてどのようなメリットがあるのかという感覚で考えないといけない。人が多く来てまちが活性化すれば、その結果、商売も繁盛するとか、そういうことだと思う。

会) 個人のメリットをあえて言うとしたら、自分が住んでいるまちに誇りを持てるようになるとか、そういう気持ちの問題はあると思う。

中町地区まちづくり協議会) 自分たちはこのまちがよくなればという単純な考えでいるが、このメリットの捉え方の違いで反対される方と意思の疎通が上手くできず、合意形成が難しかったのではないか。

先ほどアドバイザーから話があったが、平成21年度に江戸東京まちなみ情緒回生事業をしたのは、私達とは別の協議会組織だ。それは、主にこの地区の周辺の方々による協議会で、塀を黒く塗ったり、シャッターを黒く塗ってくれないとか、確かにかなり強引に進めてしまった感じがあった。その協議会と、我々の協議会を同じに捉えている方がいて、君たちがつくった黒塀はいたんでいるので今後どうするのだとか言われた。それは話し合いで誤解を解いていったが、まだ不信感をお持ちの方がいるのでなかなか難しい。

委) 説明会に出席された4名の住民は反対されている方だと思うが、この4名を説得すればよいということではなく、この方々の後ろに権利者だとか、他に何十人もいるのだから、合意形成は大変で地道なことだと思う。

中町地区まちづくり協議会) 会議やまちづくり通信も大事だが、実際に現場で、黒塀の塗装をしたり、柳の剪定をしたり、道路のガムをはがしたりして、そうした姿を見せていくことも理解をいただける手段ではないか。そうした地道な作業や普段の会話などで、心がつながっていけば、人との信頼感を得て、皆さんに理解していただけるのではないか。

委) 取り組みが空回りをしている感じを受けるので、もう少しイベントなどをやりながら、もっと心を和らげていくような方策をお願いしたい。

事) 地区まちづくり助成金は、地区まちづくり計画としてまとめていく取り組みは非常に大変なので支援のメニューとして考えたものだ。しかし、実際には、計画づくりに関連していろいろ取り組みが必要になってくる。まちづくりは、計画をつくってお終いではなく、合意形成には、その後の行動につながるような皆が納得する状況が必要になる。そうした意識を徐々に合

わせていく合意形成の過程は、人に対する不信感なども絡んできて、想定どおりに進むものではないと感じている。

中町の取り組みを思い返してみても、初期段階では活動の熟度が高まっていないので、助成金を全て使い切れるものでもない。もう少し地区の状況や活動の熟度に応じた支援のあり方を考えていかなければいけないのだろうが、一定の助成年限は設けなければならないので、どのような方向がよりよいのか。

中町地区まちづくり協議会) できれば、金額は多くなくてもいいから、もう少し期間を長くもらえたほうがよかったと思う。

委) 助成金は年度内に使い切らないといけないのか。

中町地区まちづくり協議会) 年度の繰り越しはできない。

委) 市からの助成は必ず短い期間で切れるので、別の資金を考えていかないと続かない。

中町地区まちづくり協議会) こんなに年数がかかるとは思っていなかったの、30万円でもいいから倍の期間もらえるようなことも考えてもらえると、今後どこかの協議会が使うときにいいのかなと思う。

委) 市からの助成金を受けている3年ぐらいの間に次の助成金を探すと、あらかじめ投資しておいて実行する段階で使えるような仕掛けが必要だ。ただ、まちづくり通信12号を見ている、強引な協力を求めるようなまちづくりのやり方にかなり強力な批判が出ている。中町は、住人、商売人、お店のオーナーなどの構成はどうなっているのか。

中町地区まちづくり協議会) ほとんどのお店は借りている方だ。

委) であれば、オーナーの許可がなければ何も動けない。借りている人を対象に合意形成を図っても、オーナーはダメということもある。

中町地区まちづくり協議会) まちづくり通信は借りている方には配っているが、オーナーに届いているかはわからない。そういう権利者を調べることは、市でやっていただくと助かる。

委) 住人、商売人、オーナーはみんな思惑が違っているので、食い違いは出てくるだろう。

中町地区まちづくり協議会) それは地区の特性で、それだけに問題も結構出てくる。

委) まちの活性化のターゲットは、商売か、景観か、住環境か商売環境なのか。それぞれの思いがあるので、合意を得るのはかなり難しい。

中町地区まちづくり協議会) 道路がきれいになって人が集まればいいという人と、そんなに来て欲しくないという人もいる。ただ、高齢者も増えてきているので、つまりいて転ぶことを考えると道路がきれいになったほうがいいという人もいる。ただ、まち歩きだといってぞろぞろ人が来るのが嫌だという人もいるので難しい。

委) 住人としては人にのぞかれるので観光地はいやだが、商売人は人が来て欲しい。このあたりの合意形成の手順を分けないと難しいのではないかな。

中町地区まちづくり協議会) ほとんど夜の商売ばかりなので、昼間ぶらぶら歩く分には商売に

も関係ない。

委) 昼間は喫茶店で夜は飲み屋になるというお店が増えれば別だろうが、わざわざあの地区に足を踏み入れるという雰囲気はない。まちの形態が少し違うのではないか。

中町地区まちづくり協議会) 住人の中には、今さら何かしても遅いという声もある。確かに、駐車場ばかりになってしまって、自分でも何でやっているのかと思うときがある。

委) 合意形成は地道にやるしかないが、やはりもう少し元気が出るプロジェクトというか、みんなが協力できるプロジェクトがもっとあるといい。そうしたプロジェクトにみんながお金出すような仕組みを考えて、余ったお金で会議を運営するという方がよいのではないか。例えば、着物を着たいというニーズはあるので、芸者さんに着物を着せてもらうなど。

委) 写真の背景には石畳はいいなと思う。

委) 市民の関心は高い。中町の見学会となると、我も我もと来るのではないか。

中町地区まちづくり協議会) 何年か前にもまち歩きをしたが、50人ぐらいの定員が、申し込みを始めて1時間ぐらいであつという間にいっぱいになった。

委) 非日常感もあるので、関心はあると思う。

中町地区まちづくり協議会) 我々からすると、そんなに人気があるのかなとも思う。

委) 人気というよりも興味があって行くのではないか。

委) 地区内の道は、昼間は人通りがないということか。

中町地区まちづくり協議会) 全くないわけではないが、少ない。例えば、女性3人ぐらいでカメラ持って来て、ここだけで終わってしまうんだみたいな感じにいる。

委) 道路の地権者は別の場所にいるのか。

委) 八王子は地権者が別の場所において、店子に貸す形態が多く、まちづくりが難しいと聞いたことがある。

中町地区まちづくり協議会) 土地と建物、それを借りている人と三分に分かれてしまっている。

委) 例えば、昼間だけ開いているようなショップがあるといい。

事) 中町地区まちづくり協議会の取り組みで以前から指摘されてきたことが、事務局機能の強化と活動資金の確保について。助成金は計画書作成後のことを想定していなかったもので、まちづくりのプロジェクトなどを絡めて協議会が自立していくような道筋も想定し、今後はつくった計画を実現していく仕組みを考えていく必要があるのではないかと考えている。

さらに、取り組みの目的に応じた他の支援制度を市でも把握して、それを紹介できる準備をしていく必要があるとは思っている。

委) 中町の地区まちづくりは、先駆者の立場である。協議会を構成している方々は住民でもあるし、商店街の関係の方でもあるので、協議会でまちづくりの話をしている間に商店街の話になってしまう可能性があると思う。まちづくり協議会がどういう会で、どういう趣旨で、どう運営をしていくのかは、非常に難しい話だと思う。しかし、協議会が3年程度で終わってし

まうものなら別だが、継続することに意味があるので、市としても非常に興味深く注視し、継続のためにいろいろと支援をするつもりはあると思う。そのときに、6年間やってきた経緯、やってきたことが財産になる。次のまちづくり協議会が発足するときに、非常にいい教科書になるので、本当に頑張って欲しい。

八王子の市民であれば中町は昔からどのようなまちなのか、お年寄りの方であれば大体御存じだと思う。だから、非常に後ろ向きに見る人もいるだろうが、若い人にとっては珍しいと感じることもあるだろう。実際に、初めて八王子芸者さんの踊りを見させてもらって素晴らしいという方もいるので、難題ではあると思うが、継続して協議会を運営して行って欲しい。

一つの組織を運営するには、会長、会計、それに総務担当ぐらいは必要で、そうした役割の中でいろいろ事業を経験していくうちに組織も発展していくと思う。そういう意味でも、協議会での6年間の経緯を大切な資料として持っていていただきたい。

会) 議論は尽きないが、本日はこのくらいの議論にとどめさせていただく。

事) 本日は率直なところで協議会の方からもご意見をいただいたが、もう少し聞取りをさせていただき、今後の支援の方向性について考え方を整理していきたい。その後、審議会で議論をしていただく会議を予定させていただきたい。

会) 中町の活動は貴重だし、よい参考になるので、何らかの形で応援できればよいが、この一例だけを見て条例改正を考えない方がいい。

ただ、助成金の支給の仕方を柔軟にするとか、あるいは、計画づくりを目指してつくった条例が現実にはあまりうまくいっていないところが全国的にも多いので、そのあたりをどうするかとの議論の余地はあると思う。

では、進行を事務局にお返しする。

事) ありがとうございます。本日のまちづくり審議会はこれで終了させていただく。

[午後8時19分閉会]